

10月号 営農インフォメーション

水稻・小麦の管理のポイント

水稻・・・令和4年産に向けて、土づくりの指導を行いましょう。

小麦・・・水稻収穫後、速やかに排水溝などを設置し、ほ場の乾田化に努めるよう指導しましょう。

【水稻】

① 土づくり

安全・安心でおいしいお米をつくるには地力を高めることが大切です。

土づくり肥料 **田華の豊稻(写真1)**を10aあたり60~80kg(3~4袋)を施用し、稲わら・もみがらと一緒にすき込みます。10月~11月の気温(地温)の高い時期にすき込みを行い、腐熟を早めましょう。また、カドミウム吸収抑制対策として、pH値6.5を目指した土づくりを行いましょう。

※ 野焼きは火災や、煙により周辺住宅の環境や道路の通行に支障をきたす恐れがあるため、絶対にやめましょう。



写真1
田華の豊稻

土づくり肥料「田華の豊稻」の効果・特徴

- ケイ酸ベース肥料と比べてケイ酸の吸収利用率の高い「**熔成ケイ酸リン肥**」をベースとした肥料であり、省力・低コストを実現した土づくり肥料です。
- リン酸・ケイ酸・苦土・アルカリ分を主とした成分がバランスよく含まれていることで水稻を健全に育て、収量や品質の向上につながります。
- 保証成分としてアルカリ分を含んでおり、土壤の酸性を穏やかに矯正し、カドミウム吸収を抑制する効果があります。

【田華の豊稻】【必須】

保証成分 (%)				含有成分 (%)
リン酸	苦土	ケイ酸	アルカリ	鉄分
4%	9%	30%	45%	2%

○リン酸…植物の生長、分けつ、根の伸長、開花、結実を促進します。

○苦土…リン酸の吸収を助ける働きがあり、植物の活力の基本となります。

○ケイ酸…葉や茎を丈夫にし、害虫の侵入を防いで倒伏を軽減する効果があります。

○アルカリ…カドミウムの吸収を抑制する働きがあります。



新ふりかけ堆肥 eco【選択】

本年度から採用の新ふりかけ堆肥 ecoには、土壤有機物含量の地力の素を維持向上させる効果が期待できます!!

また、通常堆肥の1/10の量の施用で土づくりが実施でき粒状で散布が行いやすくなっています。

稻わらと鋤込むことにより、さらに有機物含有量を向上させ安定生産・収量アップが期待できます!!

施用量：100～200kg/10a

散布時期：収穫後～翌年3月頃まで

含有量 (%)					
チツソ	リン酸	カリ	苦土	ケイ酸	鉄
1.9	2.1	1.0	0.8	1.02	1.0

② 深耕

土づくり肥料の施用後、耕耘を行います。耕耘は15cm以上を目指に行います。深耕は、根の伸びる範囲を広げるとともに土をやわらかくし根の活力を高め、出穂～登熟期の窒素や水分の吸収が高まり、健全な稻を育てることにつながります。反対に耕起深が浅い場合は根の生長を妨げ、収量の減少につながる恐れがあります。

※作業は低速で行いましょう。

【小麦】

① 排水対策

畑作物である麦は湿害に弱い作物であり、播種に備え排水溝を設置することが重要です。プラウ式溝堀機などを使用して排水溝を設置し、排水対策をしっかりと行いましょう。また併せて、弾丸暗渠などの施行も行うと、ほ場の乾田化が図れます。田面に亀裂が入る程度によく乾燥させると麦の播種時の作業性が高まり、発芽および苗立ちが向上します。また、降雨時には、しっかりと排水されるように排水溝の点検を必ず行いましょう。



プラウ式溝堀機での
溝切りの様子



排水対策の様子

しっかりと戻水戸までつなぐこと

② 施肥

麦は酸性に対して弱い作物です。pH 値が 6 以下になると収量の減少につながりますので、酸度矯正とリン酸補給を併せて、はたけ太郎を 10aあたり 100kg (5袋) 施用しましょう。



はたけ太郎

今後の施用管理

※施用時期は気候により異なるため目安になります。

全層施肥基準

	肥料名	施肥量 kg/10a	施用時期
土づくり	はたけ太郎	100	10月下旬
基 肥	化成肥料 14-14-14	30	11月上旬
追 肥	化成肥料 14-14-14	20	12月下旬
穂 肥	化成肥料 20-0-10	20	2月下旬～3月上旬
実 肥	硫 安	20	4月下旬

省力型施肥基準【分施】

	肥料名	施肥量 kg/10a	施用時期
土づくり	はたけ太郎	100	10月下旬
基 肥	セラコート R2500	30	11月上旬
穂 肥	セラコート R2500	30	2月下旬～3月上旬

【セラコート R2500】

○肥料成分 チッソ 25 (速効性 12.5:CG コート 12.5) 一リン酸 0—カリ 10

○遅れ穂の発生を抑制できます。(但し湿田ほ場では遅れ穂の抑制が難しい場合もあります)

○穂肥に実肥にあたる成分が含まれます。

○田植時期に係る作業と競合する実肥を省略することができるため労力の分散が図れます。

○施肥について、基肥と穂肥を同じ肥料を同じ量で施用することが可能になりました。

○平均収量が全体の上位を占めており一番安定している施肥体系になります。

省力型施肥基準【一発】

	肥料名	施肥量 kg/10a	施用時期
土づくり	はたけ太郎	100	10月下旬
基 肥	麦パンチ	40	11月上旬
実 肥	硫 安	20	4月下旬

③ 種子更新

自家採種を繰り返していると、熟期や品質にばらつきが見られるようになるので、毎年

種子更新を行いましょう。

④ 種子消毒

麦の病気には種子伝染するものが多く、裸黒穂病・なまぐさ黒穂病・斑葉病は種子伝染する病気です。発病後の防除は困難であるため、必ず種子消毒を実施しましょう。種子消毒剤については以下の通りです。

【種子消毒剤】

- 適用病害虫：紫斑病、なまぐさ黒穂病、裸黒穂病など
- 使用量：乾燥種子重量の 0.5% ※種子 10 kgに対して 50 g
- 使用時期：播種前 ●消毒方法：粉衣処理



⑤ 播種

早すぎず、遅すぎず適期・適量播種を行います。麦は播種が早すぎると厳冬期までに幼穂が分化し、凍結害や寒害により不稔粒の原因につながります。播種量が多いと過繁茂となり病気や倒伏につながります。また、播種量が少ないと茎数確保ができず減収につながるので注意しましょう。

●播種時期

ふくさやか ・・・ 11月1日～11月20日頃

※黒節病など被害防止のために、「ふくさやか」は必ず11月に入ってから播種を行います。

※令和3年産麦については、大きな自然災害もなく近年にない程の収量になりました。

播種時期については、引き続き11月に入ってからが適期ですが、天気予報（長期気象予報）により上旬播種、中旬播種など考慮が必要になります。

●播種量

品種	全層播き（ばら播き）	機械播き（条播き）
ふくさやか	8～10kg／10a	6～8kg／10a